

第6回 本明川ダム建設事業 環境保全検討委員会 議事要旨

日時：令和5年3月10日（金） 14：00～15：45

場所：長崎河川国道事務所

事務局からの説明

- ・現時点の事業進捗について報告した。
- ・本事業に係る環境保全の取り組み状況について報告した。
- ・令和4年度の事後調査報告書の内容について報告した。
- ・令和5年度の事後調査計画書の内容について報告した。

主な議事

○環境保全の取り組み状況について

【水質】

- ・出水時の流量とSSの関係は、負荷源となる上流域が植生でどの程度被覆されているかにも影響される。貯水池の水質保全の取り組みは、そういった流域の環境変化も理解して進めること。

【動物】

- ・カジカ中卵型の移植が繰り返されたことで移植地が相互に近接するようになっており、今後は支川全体としての状況を把握する視点も持つこと。

【生態系】

- ・サシバの繁殖において3月下旬からゴールデンウィーク明けまでは非常に敏感な時期であり、その時期にどこでどういった工事をするのが繁殖に影響するため、注意を払うこと。
- ・事業進捗による今後の環境変化に伴って、サシバの生息状況も変化すると考えられるため、モニタリング調査を継続すること。
- ・今後整備するビオトープは環境学習の場としても活用すること。ただし、他の地域から生物を持ち込むことは避けること。また、ビオトープの環境を維持するためにも、今後の10年20年先を見据えた維持管理体制を検討すること。
- ・ビオトープは早春季に産卵する両生類の繁殖場となりうるため、早期に整備を進め、現在の親世代がいなくなる前に水を入れることに努めてほしい。

【景観】

- ・森林表土利用の試験施工区では、アカメガシワやアオモジのような日当たりの良い場所を好む在来の広葉樹が生長しており、法面保護の立場からも、こういった広葉樹は有効である。
- ・道路法面では植生遷移が進行し、この地域の極相林を構成するアラカシやスダジイ等が侵入してくると考えられるため、今後もモニタリング調査を継続すること。

○その他

- ・付替道路の整備等、事業が進む中で、今後は地域の自治会とも連携して様々な取り組みを進めてほしい。